

# 令和6年度 第1回仙台市感染症対策協議会

1. 開催日時 令和6年11月22日(金) 19時から

2. 開催場所 仙台市役所本庁舎8階 第1委員会室

3. 出席委員(7名 50音順 敬称略)

委員 青柳 哲史	東北大学病院医学系研究科 感染症態学分野 教授(総合感染症科科长)
委員 安藤 健二郎	一般社団法人 仙台市医師会 会長
委員 遠藤 史郎	東北医科薬科大学医学部感染症学教室 教授(感染症内科科長・感染制御部部长)
委員 男澤 貴子	公益社団法人 仙台市薬剤師会 常務理事
委員 狩野 クラ子	公益社団法人 宮城県看護協会 専務理事
委員 八田 益充	仙台市立病院 診療部 感染症内科 科部長 感染対策室室長
委員 花岡 弘二	一般社団法人 仙台歯科医師会 常務理事

4. オブザーバー

平塚 勝徳 宮城県保健福祉部疾病・感染症対策課長

5. 事務局

荒井 由美子	健康福祉局保健所長
綾部 正行	健康福祉局保健所副所長
戸井田 和弘	健康福祉局衛生研究所長
大友 延裕	健康福祉局保険高齢部介護事業支援課長
鏡 夏樹	健康福祉局保健衛生部医療政策係長
佐野 ゆり	健康福祉局保健衛生部健康政策課長
星 努	健康福祉局保健所予防企画課長
鈴木 花津	健康福祉局保健所感染症対策課長
加藤 雅幸	健康福祉局保健所医務薬務課長
齋藤 卓哉	健康福祉局保健所生活衛生課長
松原 弘明	健康福祉局衛生研究所微生物課長
高橋 慶太	危機管理局危機管理部危機管理課長
加藤 誠	教育局総務企画部健康教育課長

6. 内容

1) 開会

2) 保健所長挨拶

3) 会長挨拶

安藤会長より挨拶

#### 4) 議題

##### ・議事録署名人の指名

男澤 貴子委員を指名（了承）

##### ・協議

以下のとおり

発言者	議事
会長	それでは議事（1）に入ります。 仙台市感染症予防計画に基づく主な取組について事務局より説明をお願いします。
事務局 （予防企画課長）	【資料に基づき説明】
会長	ただいまの事務局からの説明つきまして、委員の皆様からご質問やご意見を頂戴したいと思います。
遠藤委員	2ページ目の IHEAT 要員登録に関してですが、仙台市が想定している目標の人数は何人ぐらいになりますか。
事務局 （予防企画課長）	予防計画上の数値目標ということで10人を想定しておりました。
遠藤委員	現在28人ということですが、職種の構成はわかりますか。
事務局 （予防企画課長）	看護師や保健師の方が主になっております。 一部医師の方や助産師等もおります。
会長	遠藤先生、人数はたくさん登録されて素晴らしいと思いますが、内容というのはどうお考えになりますか？
遠藤委員	看護師が中心ということですが医師の方も入っているということで、すごく良い点かと思 います。 今後訓練が実施されると思うが、更に他の職種も増えてくると良いと思います。
八田委員	3ページ目の表に流行初期と流行初期以降の検査件数が載っていますけれども、この検査 は基本的にPCRを想定しているということでしょうか。
事務局 （微生物課長）	はい、その想定でございます。 初期はリアルタイムPCRで行って、流行初期以降というのは全自動のPCR装置の方の利用 を考慮して試算したという形になっております。
八田委員	コロナの時を振り返って流行初期にPCRのサンプルというか、材料みたいなものはすぐに 国から入ってくるものなののでしょうか。
事務局 （微生物課長）	コロナ対応時は国の方から具体的にプライマー、PCRに使うための検査試薬について具体 的な指示が出されて、その指示のもと各自治体で購入して検査する形でした。
男澤委員	疑問というか不安というか、実は現場では薬の安定供給というのがすごく今問題になっ ていて検査キットに関してもあまり安定供給がないような状況と私も聞きました。 今後有事になった時に検査に関しても影響がないのかなという心配をしていますが、現時 点では特にそのようなことはないと思っていてよろしいのでしょうか。
事務局 （微生物課長）	初期の頃のリアルタイムPCRの試薬は、マニュアルをもとに職員が作成するので、供給体 制についてはあまり心配することはないのかなとは思っています。

	<p>ただ、コロナ対応時、全自動 PCR 検査機の場合は、メーカーから試薬を安定して手に入れることが出来ない機器もございました。機器の選定にあたっては性能の高さというよりは、安定的に消耗品が入手できるかという観点も重要です。今回のコロナの反省を踏まえ、メーカー側も対策を立てていると考えますので、次の感染症危機では改善されるのではないかと期待しているところでございます。</p>
会長	<p>青柳先生や遠藤先生にもお伺いしたいのですが、全く新しいウイルスが出てきた際 PCR で検査できるようになるまで、遺伝子解析とかその試薬をどうやって作るかというのはどれぐらいかかるものなのですか。</p>
副会長 (青柳委員)	<p>新型コロナウイルス感染症の時のプライマー設計っていうのが、いわゆる国立感染研究所と WHO（世界保健機構）と CDC（米国 疾病対策予防センター）で若干プライマーが違っていました。</p> <p>実は我々の研究室で CDC からプライマーを購入して検査できるような体制を整えたりしたのですが、国立感染研究所が遺伝子配列の観点から診断届作成にあたっての制限をかけており適用できないことがありました。</p> <p>国もおそらく今後新しい感染症が出てきた時に、国産のいわゆるプライマー設計をどんどん進めていかなければいけないっていうところがあると思います。</p> <p>新しい感染症が発生した際は、柔軟な対応をしてもらえるといろいろ検査に関しても幅が広がるかなと思っています。</p>
会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。他にはいかがでしょうか？</p>
狩野委員	<p>看護協会から高齢者施設とか依頼を受けた施設に認定看護師が行くのですが、その中で誤った感染対策の知識、いわゆるコロナ初期の頃の知識のままの方が見受けられます。</p> <p>専門職をたくさん作るというのもとても大事なことではあると思うのですが、感染症への対応力の底上げというか、正しい知識を正しく付与する、今持っている知識に対し修正をかけていくようなことも地道にやっていかなければと思いました。</p>
会長	<p>事務局から何かありますか？</p>
事務局 (感染症対策課長)	<p>資料 10 ページのところに関連すると思うのですが、各施設さんへの感染防止等に関する情報発信というところは、健康福祉局内もしくは健康福祉局外も含めて施設担当部局の方で取り組んでいるところでございます。</p> <p>様々な施設に対して先生がおっしゃるような、正しい感染対策の具体的方法を盛り込んでいければいいのかなと思っています。</p>
事務局 (保健所副所長)	<p>コロナ禍に保育関係の課に在籍しており施設からの相談対応や指導助言を行っていましたが、施設によっては基礎的なところできていないこともあると感じていました。</p> <p>指導する我々の方の知識を先生方のご意見も頂戴しながら日々アップデートしていければと感じた次第です。</p>
会長	<p>この感染症対策協議会が権威を持って、各対象施設さんたちに「こういう感染対策が今の常識である」ということを伝えられればなとも思います。</p> <p>今回コロナ対応において医科薬科大学が動画でわかりやすいものを作ってくださいって、とても役に立ったと思っています。</p> <p>やはり介護施設とか学校とかは必ずしも感染症の専門ではないですから、わかりやすいも</p>

	のをアップデートしながら、施設の方々が見てくれるものを作って、誰でもやれるように動いていけばいいのかなと思っています。
遠藤委員	<p>今回誰も介護の人が入っていないので、介護系の方も入ってもらったりすると、我々が何を考えているかっていうのも伝わるかと思います。</p> <p>我々が考えていることが介護の方々に伝わらないのは、どこかギャップがあるはずなので介護系の方に入ってもらうことで我々も知ることができるような気がします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。仙台の地域医療を検討する会議には介護の方に入ってもらっています。</p> <p>そこで得られた意見等により問題が明らかになるなど介護の方々に参加してもらうことは大事だと思います。</p>
遠藤委員	資料6ページ記載の蚊の生息状況の調査ですが、これは蚊を捕まえるだけでしょうか。捕まえた後は何かしているのでしょうか。
事務局 (感染症対策課長)	<p>コロナ期間中に中断しておりましたが、今年度から5年ぶりに蚊の生息状況調査を再開しております。市内6つの公園で感染症を媒介する蚊を捕まえて数を確認している調査でございます。</p> <p>市内で蚊媒介感染症の患者が多数確認されるというようなところがありましたら、捕まえた蚊を実際に検査する想定しております。</p> <p>今年度採取したヒトスジシマカのメスについては、衛生研究所で凍結保管しております。</p>
遠藤委員	仙台市内で蚊が越冬することはあるのですか？
事務局 (感染症対策課長)	仙台市内での越冬については把握しておりませんが、今年度5/8から11/6まで全13回検査をしております。最終的に11/6にはどの地点でも蚊の成虫は捕まえられませんでした。
副会長 (青柳委員)	資料3ページ目エイズ性感染症に係る検査の実施について、保健所検査に加えて協力医療機関でも検査ができるようになったという理解だと思っておりますが、枠組みが広がってきた中で検査を受診する方々は、コロナ禍で減ったという話は聞いておりました。その後受検者は増えてきていたりするのでしょうか。
事務局 (感染症対策課長)	<p>エイズ性感染症検査につきましては、保健所が主催して区役所、AER等で行うものに加えて今年度から市内の医療機関さんの方に協力をお願いして検査を始めたところでございます。</p> <p>コロナ対応の時期は受検者が少なかったですが、検査の選択肢も増えた影響もありコロナ対応の時期と比較し増えている状況ではございました。</p>
副会長 (青柳委員)	<p>今年エイズの患者さんが我々の病院もちょっと増えております。</p> <p>コロナ禍を経て増えてきているかもしれないので、こういった検査が今後も重要になってくると思います。引き続きよろしくお願ひします。</p>
会長	DXと関連するかもしれませんが非常に強いウイルスが出現した際、完全に隔離した状態で医師がどういう診察ができるかを考えると、今回コロナの時に完全に隔離したところに手を入れて検査を行ったりとか、今仙台市のオンライン診療カーの中にもあるのですが、聴診器をデジタルに変えたりとそういうこともできるので、今までの常識をちょっと覆してですね、協議会から少し派生するかと思うのですが、感染症の知識と技術を組み合わせせてや

	<p>ってみたら今までにないものができるかなと思っていて、そういった夢があることも考えていきたいなと思います。</p>
会長	<p>それでは議事(2)に進みます。</p> <p>新型インフルエンザ等対策政府行動計画について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (予防企画課長)	<p>【資料に基づき説明】</p>
会長	<p>新型インフルエンザ等対策政府行動計画の概要の説明につきまして、ご質問等ありますでしょうか。</p>
副会長 (青柳委員)	<p>国の行動計画の概要に準じて仙台市さんや宮城県さんは計画を練られていると思います。冒頭に安藤会長がおっしゃられたように、仙台市としての独自性も重要と思うのですが力を入れていきたいポイント等がありますか。</p>
事務局 (危機管理課長)	<p>昨年度末に新型コロナ対応の検証報告書を作っております。</p> <p>その際には政府行動計画に基づく六項目、実施体制とかサーベイランスとか情報提供、蔓延防止、医療、国民生活などについてそれぞれの分野で検証を行ったところでございます。</p> <p>その中で事前の準備として、体制や備蓄、訓練等が必要であると記載をしております、今後県の行動計画を踏まえながら、本市独自の部分を入れていきたいと考えてございます。</p>
安藤会長	<p>診療所に限らず、臨時の感染外来をやるときに、今保険証はマイナカードをカードリーダーで読み込んでいますが、臨時の診療所とかでできるのかどうかというところがまだ解決してないはずで。</p> <p>そういったことができれば効率があがって、検査を受ける方は自分のマイナカードで登録や履歴の管理もできると思います。</p> <p>災害時の避難所や救護所でせつかくのDXが使えないということではやっぱりダメなので、事務局にちょっと調べていただいていたきたいです。</p>
花岡委員	<p>DX関連で質問させてください。</p> <p>行政と大きな医療機関とは、メール等の連絡手段が既にあるかと思えます。</p> <p>我々歯科医師が在籍しているような診療所にも歯科医師会を通さず、行政からの情報が下りてくるようなシステムがもし仙台市独自でできると良いなと思います。</p> <p>情報を拾っていくのはとても大変なことで、コロナのような未知の感染症が発生している時期は情報が錯綜すると思えます。</p> <p>全ての医療機関のメールアドレス調査しておいて有事の時にはそこにメールを送るとか、医療機関と行政を直接つなぐ方法について何かアイデアがあったらお聞かせいただきたいなと思います。</p>
事務局 (医務薬務課長)	<p>病院につきましてはメールアドレスを行政側で備えておりますが、診療所になりますと現在G-MISに登録をいただいているメールアドレスを収集して活用しております。</p> <p>現在は、医療法に基づく通知関係を情報発信しておりますが、有事の際もそのリストは活用できるのかなというふうには考えております。</p>
花岡委員	<p>歯科医師会にはすぐ情報を下ろしていただけますけど、そこからまた各診療所に情報が届くまでラグがあったり、歯科医師会にメールアドレスとかを提供いただけない先生もいらっしゃると思うので、行政から強めに言ってもらえるといいのかなというのはちょっと考</p>

	えております。
事務局 (感染症対策課長)	<p>感染症関連の国の通知やお知らせにつきまして、市内の医療機関、全部ではないですが同じようにメールアドレスを登録していただいております。</p> <p>感染症対策課としても、医療機関の方にメールアドレスの登録を、今後お願いしてまいりたいと思います。</p>
会長	<p>他に質問がなければ(2)の議事を終了いたします。</p> <p>最後にその他というところがございますが、委員の皆様方から何かありますでしょうか。</p>
遠藤委員	<p>議事(1)の資料で感染症に関する情報発信で病院等と記載ありますが、避難所がありませんでした。</p> <p>災害と感染症も一緒に起きることがよくあると思うので、避難所の情報を取りつつ発信するようなものがあると仙台市としての一つのツール、地域として強みにもなるかないうことでございました。</p>
八田委員	<p>議事(1)の資料で流行初期の検査件数が合計3,400件ぐらいと記載されてますが衛生研究所が70件台なのに対して、医療機関の1日あたり約2,200件と書いてありますが現実的な数字でしょうか？</p> <p>コロナ時期を振り返って思ったのは、検体の搬送のところもすごく大事で検体がたどり着かないとこの検査能力も生かせないのでロジについても、あらかじめ詰めておくのがすごくいいかなと思います。</p>
オブザーバー (宮城県 疾病感染症対策課長)	<p>検査能力につきましては、県の予防計画でも定めております。</p> <p>八田先生からご指摘ありました通り、ある日突然その3,400件検査できるというものではなく、流行初期いわゆる新型インフルエンザが発生しましたといった時点から概ね1か月内に、徐々に達していこうという考え方でございます。</p> <p>先ほど市の衛生研究所の方からもお話ありましたが、まずは県と市の衛生研究所の約150件からスタートし、1ヶ月をかけて徐々に件数を増やしていくというような流れを想定しているものでございます。</p> <p>またご指摘ありました検体の搬送につきましても、今後の県の行動計画を策定していく中で整理しながら、実効性を高めるような計画を仙台市さんとの協議のもと作っていきたいというふうに考えているところでございます。</p>
会長	事務局から追加で説明事項があるということなのでお願いいたします。
事務局 (感染症対策課長)	【国における急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの検討状況等について資料により説明】
会長	報告様式の「その他」の項目を埋めるということですね。では司会を事務局にお返しします。
事務局	<p>委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p> <p>それでは、これを持ちまして令和6年度第1回仙台市感染症対策協議会を終了いたします。委員の先生方、本日はどうもありがとうございました。</p>